

# 琉球大学学術リポジトリ

## ニンジャベンケイガニの沖縄島からの初記録

|       |   |
|-------|---|
| メタデータ | 言語:<br>出版者: 琉球大学資料館 (風樹館)<br>公開日: 2018-03-16<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 村田, 尚史, Murata, Naofumi<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/38809">http://hdl.handle.net/20.500.12000/38809</a>                               |

## ニンジャベンケイガニの沖縄島からの初記録

村田尚史

〒905-0021 沖縄県名護市東江 1-8-11 名護博物館 (naofumi-m@city.nago.lg.jp)

## 記録

沖縄島北部の小河川でニンジャベンケイガニ *Labuanium trapezoideum* 1 個体を採集したので報告する。本種は、前之園・成瀬 (2016) によって、石垣島から国内初記録として報告され標準和名が提唱された。国内では、他に西表島でも確認されており、国外では東部インド洋、西部太平洋を中心とする熱帯・亜熱帯地域に分布する (Jeng et al. 2003, 前之園 2017)。本種の特徴として、甲が後方に向かって明瞭に広がり台形状になる点や、歩脚の前節および指節の中央に入る明瞭な黄色の横帯などがあり (前之園・成瀬 2016)、沖縄島の河川淡水域で一般的に見られるモクズガニやオオヒライソガニとは容易に見分けられる。採集個体は、持ち帰って写真撮影した後、70%エチルアルコールで保存し、名護博物館所蔵標本 NAGOM-Cr-1 として登録した。

ベンケイガニ科 Family Sesarmidae

マルベンケイガニ属 *Labuanium* Serène & Soh, 1970ニンジャベンケイガニ *Labuanium trapezoideum* (H. Milne Edwards, 1837)

(図 1)

供試標本. NAGOM-Cr-1, 1 雌 (甲幅 25.4 mm, 甲長 26.8 mm), 沖縄島名護市西海岸河川, 2016 年 9 月 30 日, 村田尚史採集。

**採集場所の環境等.** 採集場所は感潮域上端から約 500m 上流の淡水域で、河口からは約 1,000m の地点であった。採集地点の前後周辺の川幅は 3.5-4 m で、過去に多自然型工法で親水機能を持たせるための河川改修が行われており、左岸は空隙の少ない練積みの石積護岸または凹凸のあるコンクリートブロック積護岸であり、右岸は川に降りられる階段構造となっていて、河床は石灰岩が置石状に固定配置された人工的環境であった (図 2)。一方で、その上に礫が自然堆積し、水深 40 cm ほどの小規模な淵と瀬が連続しており、一部では河岸を覆う植生

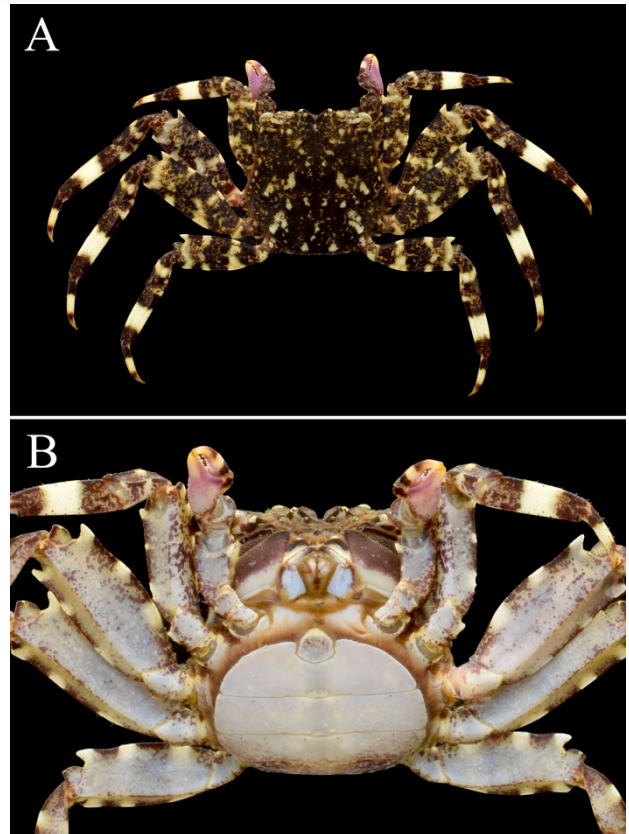


図 1 ニンジャベンケイガニの生時の色彩。NAGOM-Cr-1, 雌 (甲幅 25.4 mm, 甲長 26.8 mm)。A, 背面 (全体); B, 頭胸甲腹面。

Fig. 1 Live coloration of *Labuanium trapezoideum* (H. Milne Edwards, 1837).

NAGOM-Cr-1, Female (carapace width 25.4 mm, carapace length 26.8 mm). A, overall, dorsal view; B, cephalothorax, ventral view.

も見られ、比較的多様な環境が確認された。採集時に同所的に確認された甲殻類は、モクズガニ *Eriocheir japonica*, ヒラテテナガエビ *Macrobrachium japonicum*, ミナミテナガエビ *M. formosense*, コンジテナガエビ *M. lar* など、魚類は、ユゴイ *Kuhlia marginata*, シマヨシノボリ *Rhinogobius nagoyae*, ナンヨウボウズハゼ *Stiphodon percnopterygionus*, ルリボウズハゼ *Sicyopterus lagocephalus* など、貝類はフネアマガイ *Septaria porcellana*, スジシマイガカノコ *Clithon* sp. などであった。著者の過去の調査では、ネッタテナガエビ *M. placidulum* やオニ



図 2 採集場所の環境.  
Fig. 2 Sampling site.

ヌマエビ *Atyopsis spinipes* も同場所で確認している (村田 未発表). 本報告のニンジャベンケイガニ 1 個体は, 9 時 40 分頃, 早瀬環境で長径 20–40cm の重なった礫の下に潜んでいたところを手網によって採集した. 採集後, 河川水を入れたバケツの中で脚をばたつかせるように素早く動かす様子が観察された. なお, 採集地点においては, 河岸を覆う植生は見られなかった.

**備考.** 前之園・成瀬 (2016) で報告されたニンジャベンケイガニの最大個体は甲幅 22.5 mm, 甲長 24.0 mm の雄であり, 雌は未成熟個体のみ採集されているが, 本報告の採集個体は, 甲幅 25.4 mm, 甲長 26.8 mm の雌で腹節は左右に大きく広がり, 第 5 節の基部付近が最も幅広く腹節幅は 21.7 mm であった (図 1B). 鋏脚は左右同形・同大だが, 前之園・成瀬 (2016) の大型雄 (甲長 24.0 mm) の写真と比較して鋏は相対的に小さくて細く, 掌部の幅は 4.7 mm で長さの約 0.8 倍であった. また, 大型雄に見られる可動指上面の 1 列の瘤状顆粒および第 1 歩脚の前節・指節の後縁に密生する細い剛毛 (前之園・成瀬 2016) を欠いていた. これらの雌の特徴は, Jeng et al. (2003) の記載とよく一致しており, 同報告では, 鋏は甲幅約 12 mm 以上, 腹節は甲幅 10 mm を越えると形態的な性差が明確になっている. また, 雌の成熟最小個体が甲幅 18.2 mm としていることから, 本報告の雌も成熟個体であると考えられる.

前之園・成瀬 (2016) では, 感潮域直上に位置する河岸から河川中央に張り出した岩盤に上流の堰からの流れが強く当たるような環境で本種を確認しているが, 本報告の採集場所は, そのような環境ではなかった. また, 前之園・

成瀬 (2016) によると, 夜間に採集場所で確認された多くの個体が水面から 10–15 cm の高さの岩盤の壁面に張り付いていたほか, 水深 10 cm ほどの水中の岸壁に張り付いている個体や, 転石の裏に潜んでいる個体, 堰の流れの裏側にある隙間に潜んでいる個体も確認したという. 海外の報告では, 急流部で河岸に沿って垂直または垂直に近い崖になっているような場所や滝のように段差を伴って垂直に流れ落ちるような場所に生息するとされている (Jeng et al. 2003, Ng 2012).

著者は本報告の採集場所に夜間何度も訪れているが, 上記にあるような水上の岸壁に本種が張り付いているような光景を目撃したことはない. この場所は, 段差を伴う早瀬環境が散在するものの, 本種の好む生息環境は極めて限定的と思われる. 近年, ニンジャベンケイガニと同じように感潮域最上部に出現するカニ類の多くが石垣島から日本初記録として報告されており, これまでの調査努力量が少なかったことから生息が見落とされてきた可能性が指摘されているが (前之園・成瀬 2016), 沖縄島においても同様の理由により, 本種の生息が見落とされてきた可能性がある. しかし, 本報告の採集場所周辺で, 著者は 2009 年から継続的に潜水観察や手網による採集調査を続けているが, これまで本種が確認されたことはなかった. ニンジャベンケイガニは, 2017 年に改訂された沖縄県のレッドデータブックで情報不足 (DD) に指定されており, 今後の県内における生息情報の知見蓄積が求められる.

## 謝辞

本報告をまとめるにあたり, Rivus の佐伯智史氏には, ニンジャベンケイガニの分布情報に関する有益な情報を頂いた. ここに記して厚くお礼申し上げる.

## 引用文献

Jeng, Ming-Shiou, Hung-Chang Liu, Chyng-Shyan Tzeng & Peter K. L. Ng, 2003. On the taxonomy and ecology of *Labuanium trapezoideum* (Decapoda, Brachyura, Sesarmidae), a crab living on riverine cliffs in Taiwan. *Crustaceana*, 76 (2): 227–240.

前之園唯史・成瀬貫, 2016. 石垣島より採集された日本初記録のベンケイガニ科 (甲殻亜門:

十脚目: 短尾下目) の2 種. *Fauna Ryukyuna*, 28: 5–22.

前之園唯史, 2017. ニンジャベンケイガニ. 沖縄県環境部自然保護課, 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3 版 (動物編) レッドデータおきなわ. Pp. 351–352, 沖縄.

Ng, P. K. L., 2012. The identity of *Sesarma rotundata* Hess, 1865, and description of a new species of arboreal crab of the genus *Labuanium* Serène & Soh, 1970, from Guam, western Pacific (Crustacea: Decapoda: Brachyura: Sesarmidae). *The Raffles Bulletin of Zoology* 2012 Supplement, 25: 265–277.

**A new record of sesarmid crab, *Labuanium trapezoideum* (H. Milne Edwards, 1837) from Okinawa-jima Island, Ryukyu Islands.**

**Naofumi Murata**

Nago Museum, Agarie 8–11 1–chome, Nago, Okinawa 905–0021, Japan (naofumi-m@city.nago.lg.jp)

**Abstract.** A sesarmid crab, *Labuanium trapezoideum* (H. Milne Edwards, 1837) is newly recorded based on a female specimen collected from Okinawa-jima Island, Ryukyu Islands, southwestern Japan. The specimen was found from a freshwater stream at distances of about 1,000 m and 500 m from the river mouth and the upper limit of the estuarine basin, respectively.

投稿日: 2017年5月25日

受理日: 2017年6月6日

発行日: 2017年8月31日